

第4章 対象事業に係る計画段階配慮事項並びに調査、予測及び評価の手法

4-1 環境に影響を及ぼす行為・要因の把握

事業計画の複数案として設定した、「埋立案（A案）」もしくは「掘削除去案（B案）」の実施に伴い、事業実施想定区域及びその周辺の環境に影響を及ぼすおそれがある行為・要因（以下、「影響要因」という。）について、事業特性を踏まえ把握した結果は、表 4-1-1 に示すとおりである。

表 4-1-1 影響要因の把握

区分	影響要因	内容
工事中	河道の改変	悪臭の発生、水質・底質への影響、地下水への影響、廃棄物等の発生、動植物の生息地・生育地の改変
	建設機械の稼働	大気汚染物質の排出、騒音・振動の発生、温室効果ガスの排出
	工事関係車両の走行	大気汚染物質の排出、騒音・振動の発生、交通安全への影響、温室効果ガスの排出
存在時	事業地の存在	水質・流況の変化、動植物・生態系への影響

4-2 計画段階配慮事項の抽出・抽出した理由

事業特性を踏まえて抽出した影響要因（前掲表 4-1-1）に基づき、事業実施想定区域及びその周辺の地域特性を勘案したところ、工事中の河道の改変に伴う汚染土の拡散・流出、汚染土やアスファルトマット等の廃棄物等の発生、事業実施想定区域の改変に伴う生態系への影響が懸念されることから、本事業の実施に伴い重大な影響のおそれのある環境要素として「水質・底質」を抽出し、複数案による比較検討時に影響の程度に差がある環境要素として「廃棄物等」及び「生態系」を抽出した。

抽出した環境要素と影響要因の関連は表 4-2-1 に、抽出した理由は表 4-2-2 に示すとおりである。

表 4-2-1 計画段階配慮事項として抽出した環境要素と影響要因の関連

環境要素の区分 \ 影響要因の区分		工事中	存在・供用時
		河道の改変	事業実施想定区域の存在
水環境の保全	水質・底質	●	—
ごみ減量・リサイクルの推進	廃棄物等	○	—
生物多様性の保全、緑の保全と創出	生態系	—	○

注）●は重大な影響のおそれがあるもの、○は複数案で差があるものを示す。

表 4-2-2 計画段階配慮事項として抽出した理由

環境要素	時 期	抽 出 理 由
水質・底質	工事中	・河道の掘削に伴い有害物質を含む底質が拡散・流出する可能性が考えられる。
廃棄物等	工事中	・工事に伴い、汚染土等の廃棄物の発生が考えられる。
生態系	存在・供用時	・事業実施想定区域の改変により、地域を特徴づける生態系への影響が考えられる。

4-3 調査、予測及び評価の手法

(1) 水質・底質

調査、予測及び評価の手法を表 4-3-1 に示す。

表 4-3-1 調査、予測及び評価の手法

調査	調査目的	水質・底質の状況の把握
	調査事項	水質・底質の状況
	調査方法	既存資料の整理
予測	予測事項	河道の改変による汚染土の拡散・流出
	予測項目	汚染土の拡散・流出
	予測条件	工事計画
	予測方法	工事計画を踏まえた定性的な方法
	予測場所	事業実施想定区域及びその周辺
	予測時期	工事中
評価	評価手法	影響の程度及び複数案間における汚染土の拡散・流出の可能性の比較整理

(2) 廃棄物等

予測及び評価の手法を表 4-3-2 に示す。

表 4-3-2 予測及び評価の手法

予測	予測事項	事業の実施に伴い発生する廃棄物等の種類及び発生量
	予測項目	廃棄物等の種類及び発生量
	予測条件	工事計画、撤去する構造物等
	予測方法	工事計画から発生する廃棄物等の種類、発生量を推計
	予測場所	事業実施想定区域内
	予測時期	工事中
評価	評価手法	複数案間における廃棄物等発生量の比較整理

(3) 生態系

調査、予測及び評価の手法を表 4-3-3 に示す。

表 4-3-3 調査、予測及び評価の手法

調査	調査目的	事業実施想定区域及びその周辺の生態系の概況把握
	調査事項	動植物その他の自然環境の概況
	調査方法	既存資料の整理及び現地踏査
予測	予測事項	事業の実施による生態系への影響
	予測項目	生態系への影響
	予測条件	既存資料及び現地踏査結果による生態系の区分、分布及び特性 工事計画及び工事後の土地利用計画
	予測方法	類似事例等に基づく定性的な予測
	予測場所	事業実施想定区域及びその周辺
	予測時期	存在・供用時
評価	評価手法	複数案間における生態系に与える影響の比較整理